

# クサスギカズラ

ユリ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧 I 類

*Asparagus cochinchinensis* (Lour.) Merr. var. *lucidus* Hatus.

国カテゴリー

該当なし

## 選定理由

従来、比較的稀な植物であったが近年海岸開発等により、本県では、絶滅が危惧される状況となった。(現況: R-)

## 形態

石川県に自生するクサスギカズラ属植物は、本種とキジカクシの両種であるが、キジカクシは花柄の頂部に関節があるのに対して、本種は花柄の中央部付近に関節がある。根は紡錘形にふくれる。葉は4~5mmの刺状となる。葉状枝は線状で緩く湾曲、三稜をなして1~3個が葉腋に束生する。雌雄異株。液果は直径7mm程度、汚白色。九州南部以南、琉球のものをナンゴククサスギカズラとして区別することがある。

## 国内分布

本州、四国、九州。台湾、朝鮮にも分布。

## 県内分布

もとは、能登全域と加賀中央区で知られていたが、今回の調査では南加賀区からの報告がある。

## 生態など

海岸近くに生育する多年生草本。上部は他物にまとい付く。開花期5~6月。

## 生育環境

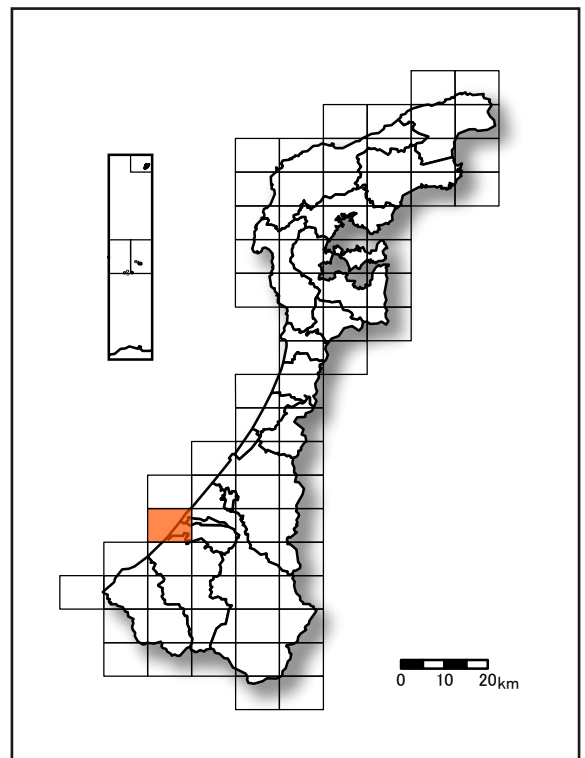
海岸近くの草原。

## 危険要因

海岸開発。



小野ふみゑ・2008年10月11日・加賀



県内の分布